

年頭挨拶

副院長・診療支援局長
(兼)血液内科主任部長・臨床研修センター長

烏野 隆博



「新年あけましておめでとうございませう。」

新年明けましておめでとうございませう。昨年は一昨年同様、新型コロナウイルスに振り回された一年でありました。しかし、りんくう総合医療センターではワクチン接種や治療薬であるカクテル療法など、地域の先生方と協働で対応することでこの地域での蔓延を防ぐことができました。また患者様および御家族の方々におきましても、診療に際して不自由をおかけしながらも御協力をいただきました。ここに地域の皆さまに対し深く感謝申し上げます。さて、昨秋ごろから新型コロナウイルス感染が収束に向かっているのは、その一つにワクチンの開発がありますが、このワクチンはわずか一年という驚異的な早さで開発されました。そこには

多くの分野の知識や技術の蓄積があったからであり、さらには、「新型コロナウイルスを解決しなければ未来はない」というコンセンサスの中で、この地域で完結する医療を提供し地域住民を守って「こう」というコンセンサスの下で各診療科のみならず、薬剤部門をはじめとする多種職が診療支援局として一つにまとまり協力して医療を行っています。今年も診療局・看護局・診療支援局が一丸となって多くの課題に對峙し、今年こそ明るい一年となることを祈念いたします。

年頭挨拶

法人本部長
(兼)事務局財務管理部長

高橋 和也



「新年あけましておめでとうございませう。」

12月現在では、新規感染者の減少状況が続いているところですが、新たな変異株オミクロン株が世界中で増え続け出ておりますが、オミクロン株が出現したとしても、私たちにできる感染対策は変わりなく、手洗いや3つの密を避ける、マスクを着用するなどの感染対策をこれまで通りしっかりと続けることが重要だと言われています。

この写真は、皆さんご存知の大分県別府の地獄めぐりの一つの「白池地獄」です。2020年のお正月に家族で行った時の写真です。新型コロナウイルス感染症の感染拡大前のタイミングでした。早く感染拡大前のように、気軽に旅行に行けるようになればと願っております。



大分県別府「白池地獄」

烏野副院長のおすすめ

「鶏の画家」とよばれる伊藤若冲の代表作です。奇矯な絵で人々を魅了していますが、贖罪の思いから作画にのめり込んでいたとも言われています。「若冲」という字は「老子」からとられており、絶え間なく成長し続ける姿勢を意味しています。そのような姿勢の人はエネルギーが枯渇することがなく、周りの人は、その姿



伊藤若冲『動植綵絵』

を見て勇気づけられたりすることになります。誰かのためではなく、自分が一生懸命やるという行為が誰かの役に立つという、理想の生き方を表しています。今の世の中に足りないものかもしれません。

年頭挨拶

診療局長
(兼)外科統括部長・消化器外科部長・がん治療センター長・医療安全管理室長・臨床研修センター副センター長

種村 匡弘



「新年あけましておめでとうございませう。」

2021年は新型コロナウイルスパンデミックという大きな試練の年でした。帰省も初詣もできない「巣籠り」状態で一年の幕を開けました。しかし9月30日に緊急事態宣言やまん延防止等重点措置がようやく全面解除となり、「アフターコロナ」へと意識が移行しつ

つあります。2022年こそ、自粛生活から心身ともに解放され、心機一転新しいことを始めたり、ずっと温めてきたプランを実行したり、中断していた活動を再開したり；そんな希望や夢のある年にしたいと考えています。

種村診療局長のおすすめ

『2022年・寅年』の寅にちなんだことわざとして「虎穴に入らずんば虎子を得ず」ということわざがあります。何事もリスクを取らなければ大きな成果を得るのは難しいという教訓です。さて、サントリーは大阪を発祥とする大企業で、大阪経済を牽引する有名メーカーの一つです。この大企業の歴史をつくってきたのは『やってみなはれ』の精神、すなわち常識を疑い視点を変え、考えぬいて、ひたむきに行動する。失敗や反対を恐れず、ひたすら挑戦しつづける事業の原動力となる価値観で、前出のことわざの教訓と通じるものがあると思われま

かせない日はありません。デジタル技術の革新スピードは目覚ましく、医療にも急速に進展してきています。2020年、本邦初のAI医療機器が承認され、私の専門である消化器外科領域の手術にもロボット支援内視鏡手術の保険承認・導入が急速に広まっています。その結果、多くの病院はこぞで内視鏡手術支援ロボット・Da Vinci Surgical Systemを導入しました。2022年は当院もこのような急速な医療技術のinnovationに乗り遅れることなく、適切な将来投資を実施し最先端医療を患者の皆様へ提供できるよう、攻めに転じた『やってみなはれ』精神で医療活動に努め未来に繋げていきたいと思います。

年頭挨拶

大阪府泉州救命救急センター所長
(兼)Acute core surgeryセンター長・重症外傷センター長

中尾 彰太



「謹んで新春のお慶びを申し上げます。」

昨年を振り返りますと、前半は新型コロナウイルス感染症の蔓延のなかで、いかに多くの重症化された患者さんを救うか、というニーズへの対応に明け暮れました。後半、秋が深まるころには、感染状況が落ち着き、日常生活が取り戻されはじめました。この生活の変化とともに、救命救急のニーズは感染症対応から通常の

重症救急対応に急激に変わりました。このような劇的に変化に対応した昨年の経験を踏まえ、あらゆるニーズにリアルタイムかつ的確に対応することこそが、我々救命医の専門性であるとの自負をもち、これからも地域の皆さまのご期待に応えるべく、当科一同精励してまいります。今年もよろしくお願いたします。

中尾所長のおすすめ

数年前のベストセラー「ファクトフルネス (FACTFULNESS)」を紹介いたします。人々は10種類の強い思い込み(本能)により、物事を正しく評価できなくなることで、そして事実に基づいて物事を評価すること「ファクトフルネス(著者の造語)」が重要であることがわかりやすく解説されています。本書は、もともと部下に勧められたものですが、一語一句、心に響きました。私の「ファクトフルネス」力が不足していたようです(笑)。



「ファクトフルネス (FACTFULNESS)」
ハンス・ロスリング、
オーラ・ロスリング、
アンナ・ロスリング・ロンランド 著
上杉 周作、関 美和 訳
日経BP 2019年1月

QRコード



詳しくは当院webサイトをご覧ください。

ご寄附のお願い
りんくう総合医療センター



りんくう総合医療センターでは、皆様に安全で安心な生活をお過ごしいただけるよう地域の医療を守っています。当院の運営にご理解いただき、ご寄附をお寄せくださいますようお願い申し上げます。

●泉佐野市ふるさと納税を活用した応援寄附金も募集しております。泉佐野市ふるさと納税からのご寄附の際、寄附の用途として「メディカルプロジェクト(医療環境整備)」を選択していただくと、寄附金の一部がりんくう総合医療センターの病院運営に活用される仕組みとなっております。ぜひ、泉佐野市の特産品をお楽しみいただき、当センターを応援してくださいませう、よろしくお願いいたします。

泉州広域母子医療センター

Sensyu Regional Medical Center for Women's and Children's Health

●周産期センター(産科・小児科)

平成20年4月より、りんくう総合医療センター産婦人科と市立貝塚病院産婦人科はひとつの組織として統合されました。りんくう総合医療センターは「周産期センター」として泉州地域の産婦人科医療を担う拠点病院として運用しています。



QRコード



詳しくはwebサイトをご覧ください。